

モザンビーク共和国月報（2021年8月）

主な出来事

【内政】

- 新型コロナウイルス（感染対策の継続1）
- 新型コロナウイルス（感染対策の継続2）
- カーボデルガード州情勢（ムイドウンベ郡シンガ基地の奪還）

【外交】

- カーボデルガード州情勢（SADCミッション就任式典の開催）
- モザンビーク外交（SADC通常首脳会議の開催）

【経済】

- モザンビーク経済（国家統計局における最新の国民経済報告書）
- モザンビーク経済（最低賃金の引き上げ）
- モザンビーク経済（マプト国際見本市の開催）
- 非開示債務問題（シャン元経済・財務大臣の身柄引渡し）

【内政】

新型コロナウイルス（感染対策の継続1）

13日、ニュシ大統領が会見を実施し、新型コロナウイルス拡大を受けて7月19日に発表した措置を継続する旨発表したところ、主な変更点は以下の通り。本件措置は、8月16日より30日間に亘って実施される。

- (1) イニャンバネ州ヴィランクーロ、マシंगा及びマシシにおける初等、中高等、専門教育、教師養成、職業訓練、大学の対面授業は30日間停止される。
- (2) 新型コロナウイルス予防措置を遵守する限り、試験の対面での実施は許可される。
- (3) パスポート、DIRE及び一時滞在ビザを除く全ての公的書類（身分証明書、運転免許証、輸入車の入国許可の書類）は、有効期限が過ぎた場合であっても、2021年9月14日までは有効とする。

新型コロナウイルス（感染対策の継続2）

27日、ニュシ大統領による会見において、新型コロナウイルス感染防止措置の継続および一部措置の緩和が発表され、また、同日付官報において、同措置に係る政令が公布されたところ、主な変更点は以下のとおり。なお、本措置は8月28日から30日間有効となる。

- (1) 初等、中高等、技術専門教育、教師養成、職業訓練、大学の対面授業の再開を許可する。（注：これまではマプト大都市圏等での対面授業は停止。）
- (2) 夜間外出禁止令は、22時から4時までとする。（注：これまでは21時から4

時。)

(3) 公的機関は、7時30分から15時30分の通常時間で営業を再開する。(注：これまでは8時から14時。)

(4) 大型および中型ジムの再開を許可する。大型ジムは最大収容人数の25%、中型ジムは、10%を超えてはならない。(注：これまでは原則閉鎖。)

(5) ショッピングセンターの営業時間は、月曜から土曜の9時から18時まで、日曜日および祝日は9時から17時までとする。(注：これまでは、月曜から土曜は9時から16時まで、日曜日および祝日は9時から15時まで。)

(6) レストラン、テイクアウト、宅配サービスの営業時間は、毎日6時から20時までとする。(注：これまでは6時から18時まで。)

(7) コンビニエンスストアを含むパン屋と菓子屋の営業時間は、毎日6時から19時までとする。(注：これまでは5時から18時まで。)

(8) カジノの再開を許可する。(注：これまでは同施設の使用禁止。)

カーボデルガード州情勢 (ムイドウンベ郡シンガ基地の奪還)

27日、バルトリーノ・キャピティーネ国防軍副参謀総長は、ナンプラ州において行われた司令官養成コース修了式中、モザンビーク軍がムイドウンベ郡シンガ基地を奪還した旨述べた。

シンガ基地は、ムイドウンベ郡のナマカンデ村から6キロメートル離れた場所に位置し、武装勢力による襲撃によって最も影響を受けた基地の一つであった。

(27日付LUSA)

【外交】

カーボデルガード州情勢 (SADC ミッション 就任式典の開催)

9日、ニュシ大統領は、カーボデルガード州北部で実施されたSADCスタンバイフォースの就任式典において、軍事オペレーションにおける一層の調整を要請した。

同大統領は、南ア、アンゴラ、ボツワナ、レソトおよびタンザニアからなるスタンバイフォースはテロの抹消への決断の現れであるとする一方、一層の意思疎通、規律、人々の生活への尊重を要請したいと述べるとともに、現地コミュニティとの関係を強化するよう奨励した。また、同大統領は、現地住民に対し、命がけでモザンビークとの連帯を示す外国人兵士にとって友好的なホストであるよう呼びかけた。

ニュシ大統領は、モザンビーク国軍とルワンダ軍とが協力し、昨年8月よりテロ集団が拠点としていたモシンボアダプライア郡を奪還した旨言及した。

同大統領はスタンバイフォースに対し、マコミア、アワッセおよびキサंगाを結ぶ三角地帯、ムイドウンベとマンガェウアを結ぶ回廊における完全な敵の掃討等を要請するとともに

に、スタンバイフォースの駐留による住民、財産および施設の保護、殺人の終焉に対するモザンビーク国民の期待を述べた。また、同大統領は、モザンビーク国軍、SADCスタンバイフォースおよびルワンダ軍が協力・協調してテロと戦うことを確約した。

(10日付クラブオブモザンビーク)

モザンビーク外交 (SADC通常首脳会議の開催)

17日、リロングウェ(マラウイ首都)にて、第41回SADC通常首脳会議が開催され、ニュシ大統領による演説やモザンビークからマラウイへのSADC議長国の交代等が行われたところ、当地報道等の概要は以下のとおり。

【17日付大統領府公式フェイスブック投稿記事の概要】

(1) 17日、大いなる名誉および任務を達成したという気持ちと共に、SADC議長職をマラウイに引き継いだ。

(2) モザンビークは議長国として、公衆衛生、気候変動の影響に対するレジリエンス、SADCへの投資促進における民間セクターの関与、平和と安全、テロとの戦い、インフラおよび食料安全保障分野に注力した。

(3) マラウイがSADC議長国となる歴史的なこの時に、兄弟国であるマラウイと他の加盟国が我々の成功に貢献したように、モザンビークはマラウイの成功のために全面的に協力する。

【18日付ノティシヤス紙記事の概要】

(1) ニュシ大統領は、テロおよび暴力的過激主義への軍事介入は、即時の人道支援および開発への投資により補完される必要がある旨主張した。

(2) 同大統領は、第41回SADC通常首脳会議の開会式にて、平和と安全は、それらが有する協力の促進および社会・経済的発展に対する役割に鑑みて、地域統合プロセスの基盤の一つを構成すべきである旨述べた。また、9日にペンバ市にて立ち上げられたSADC軍について、同軍の展開に対するSADC加盟国の迅速な団結を称賛した。

(3) 同大統領は、SADC議会フォーラムを地域議会とする必要性を改めて強調した。同議会の発足は、南部アフリカ地域の国民と地域機関をつなぎ、地域開発戦略的・指標的計画(RISDP)2020-2030の優先事項の実現に、それらの関係者を関与させる方法である旨述べた。

(4) 17日、ニュシ大統領は南アフリカおよびジンバブエ大統領とそれぞれ非公開首脳会談を行った。

(17日付大統領府公式フェイスブック投稿記事および18日付ノティシヤス紙)

【経済】

主要経済指標

・名目GDP：140億米ドル(2020年世銀)

- ・ GDP（1人あたり）：448.6 米ドル(2020 年世銀)
- ・ GDP 成長率：-1.28%（2020 年世銀）
- ・ インフレ率（消費者物価指数）：3.14%（2020 年世銀）
- ・ 輸出（通関ベース）：35.88 億米ドル（2020 年中銀）
主な輸出品は、アルミ製品、石炭、電力、重砂、天然ガス、たばこ。
- ・ 輸入（通関ベース）：58.82 億米ドル（2020 年中銀）
主な輸入品は、機械類、建設資材、燃料、医薬品、自動車、アルミ原料。

モザンビーク経済（国家統計局による最新の国民経済報告書）

30日、国家統計局（INE）が発表した最新の国民経済報告書によると、2021年第2四半期の実質国内総生産（GDP）は前年同期比1.97%増を記録した。同年第1四半期に続き、2期連続でプラス成長を記録し、新型コロナウイルスによる経済の落ち込みから回復の兆しを見せている。

分野別では、第3次産業が前年同期比2.82%増と成長を牽引し、中でもホテル・レストラン業が4.03%増、運輸・通信業が2.88%増、金融サービスが1.79%増となった。新型コロナウイルスの流行下で打撃を受けた産業の回復が目立つ。第1次産業は前年同期比で1.55%増を記録し、漁業が2.62%増、農業・畜産・狩猟・林業が1.62%増、採掘業が0.84%増となった。第2次産業では、建設業が2.38%増、製造業が1.16%増を記録したものの、電力・ガス・水事業が9.77%の大幅減を記録した。

（8月30日付INE報告書）

モザンビーク経済（最低賃金の引き上げ）

27日、モザンビーク政府は、労働諮問委員会（CCT）にて決定されたセクター別の最低賃金の改定額を承認し、8月1日から公務員及び民間企業の労働者に適用されることを発表した。CCTは、政府、労働組合、使用者協会の3者からなる組織で、例年第1四半期にCCTによる最賃交渉が行われ、4月1日から改訂後の賃金が適用される。2020年の会期は新型コロナウイルスの影響で中断され、21年6月下旬になってようやく交渉が再開されていた。そのため、賃金が最後に引き上げられたのは19年4月と2年強に亘りモザンビークの賃金は凍結していた。当地の最低賃金は、セクター別に賃上げ交渉がされる。現在は18セクターとサブセクターに分かれており、今般の平均上昇率は1.5%~8.7%となった。

（24日付クラブオブモザンビーク紙）

モザンビーク経済（マプト国際見本市の開催）

8月30日から9月5日にかけて、マプト州マラクエネ地区にてマプト国際見本市（FA

C I M) が開催される。F A C I Mはモザンビークで最も歴史のあるマルチセクターの見本市として、あらゆる企業らが出展し、ビジネスチャンスを促進するイベントとなっている。今年は“産業化、イノベーション、経済の多様化”をテーマに掲げられている。昨年は、新型コロナウイルスの流行により開催が見送られたが、今年では会場での出展とオンラインでの出展というハイブリットな形での開催となる。

主催者の発表によると、F A C I Mの会場に足を運ぶ来訪者は、1日750人程を見込んでおり、9月5日の展示会終了時には計5,250人の来訪者が予想されている。新型コロナ以前のF A C I Mは、国内外の来場者及び出展者併せて一週間で7万人が来場していた。海外からの参加については、政府は24カ国の参加を予測していたが、登録された国は12カ国に留まった。

(8月27日及び30日付クラブオブモザンビーク紙)

非開示債務問題 (シャン元経済・財務大臣の身柄引渡し)

南アフリカ司法省は23日にプレスリリースを発表し、ラモラ同司法相がシャン元経済・財務大臣の身柄をモザンビークに引き渡す決定を下したことを発表した。2013年から2014年にかけて行われた非開示債務問題において、賄賂を受け取ったとされるシャン元大臣は、米国ではなくモザンビークの裁判で裁かれることになる。

南アフリカ司法当局は、モザンビーク検察庁と米国司法当局の両方からシャン元大臣の引き渡し要請を受けており、どちらの国に引き渡すか判断を見送り続けていたが、23日からモザンビーク国内で公判が開始されることがきっかけとなり事態が進展した。

(21日付Maverick、25日付AIM紙)

(了)